

鎌ヶ谷市政策評価表

政策の名称	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります		
基本目標	1「健康で生きがいのある福祉・学習都市」をめざして	政策担当マネージャー	生涯学習部長
重点政策該当有無	○重点政策	マネージャー氏名	山崎 正史

I 改革・改善内容(=政策をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	(1)教育内容の充実については、少人数指導教員「きらり先生」や、特別支援教育推進指導教員「ほほえみ先生」、外国語教育のためのALT、IT教育など継続的に実施していくとともに、一層の充実を図ります。 (2)教育環境の整備については、学校施設の非構造部材の耐震改修事業を実施するとともに、全小中学校の普通教室、特別教室等に空調設備を設置します。 (3)安全安心の確保、青少年の健全育成については、通学路の整備、登下校時の安全パトロールを継続的に実施、また非行防止活動の充実を図ります。	③改革・改善内容	(1)児童生徒の学力向上や、学校と家庭、地域社会と一体となる教育活動、また、教職員の更なる育成に継続して取り組みます。 (2)老朽化した義務教育施設の適切な維持管理を行うとともに、校舎の外壁や屋上防水工事、トイレの洋式化等、計画的な補修改修工事を行います。 (3)児童生徒の健康管理や、通学路の安全対策について継続して取り組むとともに、学校災害については、更なる安全指導の徹底に加え、学校による災害分析(原因・予防)をしっかりと行うことで災害の発生防止に努めます。
②①に基づく取り組み結果	(1)特別支援教育推進事業(ほほえみ先生1名増員)、小中学校コンピューターのリニューアル準備、少人数教育推進事業、スクールカウンセラー事業の実施。 (2)H26年度全中学校、H27年度全小学校における非構造部材の耐震工事、H26年度全小学校、H27年度全中学校の普通教室、特別教室の空調設備の設置を完了。 (3)第三次通学路安全対策推進行動計画(H28～H32)策定。		

II 政策の目的・概要

①目的	対象	子ども	意図(対象をどうするのか)	子どもが人間性豊かに、かつ、たくましく健全に成長しています。
②政策の概要	人間性豊かな子どもの育成環境をつくるため、幼児教育、義務教育の充実、青少年の健全育成、児童生徒の健康と安全を確保します。			
③環境分析(状況変化や今後の見込み・市民意向など)	全国的な児童生徒に関わる事件事故が多発し、児童生徒の安全確保に対するニーズが高まっています。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成26～27年度の施策の成果	小中学校14校に特別支援教育推進指導教員(ほほえみ先生)を配置していますが、大規模校には複数配置しており、平成27年度は道野辺小学校に1名増員し、担任と連携して一人ひとりのニーズに応じた「個別支援計画」を策定し、指導・支援を図りました。また、義務教育施設については、平成26年度全小学校に、平成27年度全中学校に空調設備を設置完了し、教育環境の向上に努めました。							
②施策成果指標	指標名称		単位	平成25年度	平成26年度	平成27年度	目標値(27年度)	目標値(32年度)
	1	市内幼稚園児・保育所児童数	人	3,518	3,559	3,565	3,450	3,500
	2	少人数指導教員配置数	人	14	14	14	14	14
	3	特別支援教育推進指導教員配置数	人	16	16	17	14	14
	4	不登校児童生徒出現率	%	1.0	1.2	1.0	0.8	0.5
	5	義務教育施設耐震化率	%	100	100	100	80.4	100
	6	学校災害件数の割合	%	6.5	6.1	6.3	5.5	5.0
	7	子ども安全メール登録者数	人	5,163	5,786	4,784	6,200	7,000
	8	学校給食残菜率 旧計量方法	%	14.2	-	-	13.2	12.0
	9	学校給食残菜率 新計量方法	%	-	25.4	25.4	-	-
	10	オープンカレッジかまがや参加者数	人	640	688	632	1,000	1,200
	11	地域見守り活動従事者数(延べ)	人	962	1,187	1,161	1,250	1,300
12	ジュニアリーダーズクラブ新規加入者数	人	1	8	9	3	3	
③政策の事業費	平成26年度決算	平成27年度決算	市民一人あたり事業費(27年度決算)			平成28年度予算		
事業費(千円)	2,993,138	2,589,532	24			1,960,674		

IV 評価・検討

①課題	(1)子どもの「生きる力」を育てる観点から、学力・体力の向上、いじめや不登校対策、児童生徒の安全確保など、学校教育の充実に努めます。 (2)老朽化している義務教育施設の計画的な改修工事を進め長寿命化を図るとともに、維持補修を行い教育環境の整備に努めます。		
②総合評価	2概ね達成	③総合評価の理由	学校災害件数や不登校児童生徒出現率は、目標値に達していないものの、指導教員の適正配置、教職員研修により児童生徒一人ひとりの個性に応じた教育が図れました。また、児童生徒が安全で快適な環境の下で学習ができるよう施設整備の拡充が図れました。

V 今後の方向性

①成果の方向性	↑ 向上	②コストの方向性	↑ 増加
③特に重点化する施策	施策2 生きる力を育てる義務教育の充実		
④上記方向性の説明	小中学校の空調設備の整備は完了したものの、義務教育施設の老朽化に伴う施設改修(屋上防水やトイレの洋式化など)、維持・補修を計画的に進めていく必要があることから、成果・コストについては増加の方向となります。		